

## 注意事項

1. 試験問題の数は 70 問で解答時間は正味 2 時間 25 分である。
2. 試験問題の持帰りを認めない。
3. 解答方法は次のとおりである。

(1) 各問題には a から e までの五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを(例 1)では一つ、(例 2)では二つ選び答案用紙に記入すること。

(例 1) 101 県庁所在地は

どれか。

- a 栃木市
- b 川崎市
- c 神戸市
- d 倉敷市
- e 別府市

(例 2) 102 県庁所在地はどちらか。

2 つ選べ。

- a 宇都宮市
- b 川崎市
- c 神戸市
- d 倉敷市
- e 別府市

(例 1) の正解は「c」であるから答案用紙の

101  a  b  c  d  e のうち  c をマークして

101  a  b  c  d  e とすればよい。

(例 2) の正解は「a」と「c」であるから答案用紙の

102  a  b  c  d  e のうち  a と  c をマークして

102  a  b  c  d  e とすればよい。

(2) 答案の作成には HB の鉛筆を使用し、濃くマークすること。

良い解答の例……  (濃くマークすること。)

悪い解答の例……   (解答したことにならない。)

(3) 答えを修正した場合は、必ず「消しゴム」あとが残らないように完全に消すこと。鉛筆の色が残ったり 「」 のような消し方などをした場合は、修正したことにならないので注意すること。

(4) ア. (例 1) の質問には二つ以上解答した場合は誤りとする。

イ. (例 2) の質問には一つ又は三つ以上解答した場合は誤りとする。

(5) 答案用紙は折り曲げたりメモやチェック等で汚したりしないよう特に注意すること。

1 正しい組合せはどれか。

- a 乳中切歯萌出 ————— 生後 2年ころ
- b 第一乳臼歯歯冠完成 ————— 胎生 32週ころ
- c 第二乳臼歯歯根完成 ————— 生後 3年ころ
- d 第一大臼歯石灰化開始 ————— 胎生 24週ころ
- e 第二大臼歯歯胚発生 ————— 胎生 40週ころ

2 生理的年齢を表すのはどれか。

- (1) 歯 齡
- (2) 発育指数
- (3) 比体重
- (4) 知能指数
- (5) 骨核化骨数

- a (1), (2), (3)
- b (1), (2), (5)
- c (1), (4), (5)
- d (2), (3), (4)
- e (3), (4), (5)

3 3歳児の発達で正しいのはどれか。

- a 基本的運動が完成する。
- b 情動の分化が完成する。
- c 片言を話し始める。
- d 単語数が増加する。
- e 発音が完成する。

4 プラーク形成量が少なくても重篤な歯周組織破壊を示すのはどれか。

- a 妊娠性歯肉炎
- b 慢性剥離性歯肉炎
- c フェニトイント肉芽増殖症
- d 成人性歯周炎
- e 若年性歯周炎

5 歯髓炎と根尖性歯周炎との鑑別診断に有効なのはどれか。

- a インピーダンス測定検査
- b 電気診
- c 打診
- d 動搖度診査
- e 透照診

6 治療で正しい組合せはどれか。

- a 過換気症候群 ————— 二酸化炭素
- b 神経性ショック ————— 塩酸ジフェンヒドラミン
- c アスピリン喘息 ————— インドメタシン
- d 心停止 ————— ニトログリセリン
- e 代謝性アシドーシス ————— 生理食塩液

7 慢性齲歎で正しいのはどれか。

- a 穿通性である。
- b 壮年者より若年者が多い。
- c 象牙質の着色が著しい。
- d エナメル質が白濁する。
- e 軟化象牙質が多量に存在する。

8 小児の笑気吸入鎮静法で正しいのはどれか。

- a 1～2歳児に適用される。
- b 疼痛の閾値が低下する。
- c 恐怖心が強い児童に有効である。
- d 笑気75%、酸素25%の混合ガスを用いる。
- e 血圧が上昇する。

9 幼児の歯種別齲歎好発歯面で正しいのはどれか。

- a 上顎乳中切歯の近心面
- b 下顎乳中切歯の唇側面
- c 乳犬歯の舌側面
- d 第一乳臼歯の近心面
- e 第二乳臼歯の遠心面

10 ウイルスが関連するのはどれか。

- (1) Bednar アフタ
  - (2) Riga-Fede 病
  - (3) Koplik 斑
  - (4) 手足口病
  - (5) 上皮真珠
- a (1), (2)    b (1), (5)    c (2), (3)    d (3), (4)    e (4), (5)

11 保険装置と歯齦との組合せで正しいのはどれか。

- (1) クラウンループ ————— II A
  - (2) ディスタークション ————— III A
  - (3) 可撤式保険装置 ————— III B
  - (4) リンガルアーチ ————— III B
  - (5) Nance のホールディングアーチ ————— III B
- a (1), (2), (3)    b (1), (2), (5)    c (1), (4), (5)  
d (2), (3), (4)    e (3), (4), (5)

12 鎮骨頭蓋異骨症の特徴はどれか。

- a 乳歯の先天欠如
- b 乳歯の早期脱落
- c 歯冠の矮小化
- d 頭蓋縫合の早期閉鎖
- e 上顎の発育不全

13 関連のある組合せはどれか。

- a 脳性麻痺 ————— 言語障害
- b 筋ジストロフィー ————— 自傷行為
- c 精神発達遅滞 ————— 咬筋過緊張
- d 自閉症 ————— 歯肉増殖、
- e てんかん ————— 流涎

14 高齢者に多いのはどれか。

- (1) 扁平苔癬
  - (2) 白板症
  - (3) 地図状舌
  - (4) 粘液嚢胞
  - (5) カンジダ症
- a (1), (2), (3)    b (1), (2), (5)    c (1), (4), (5)  
d (2), (3), (4)    e (3), (4), (5)

15 乳歯の処置と薬剤との組合せで適切なのはどれか。

- a 間接覆雫 ————— ホルムクリゾール
- b 直接覆雫 ————— パラホルムアルデヒド
- c 生活断雫 ————— 水酸化カルシウム
- d 拔 隈 ————— 過ホウ酸ナトリウム
- e 根管充填 ————— 亜ヒ酸

16 レジン系材料の窩溝填塞で正しいのはどれか。

- a ラバーダム防湿下で行う。
- b 歯面清掃にはフッ化物配合研磨材を用いる。
- c 保持率を高めるために裂溝歯質を削除する。
- d 萌出直後の永久歯ではエッティング時間を長くする。
- e 光重合型材料は翌日に研磨を行う。

17 アペキソゲネシスの対象となるのはどれか。

- a 3歳児の下顎第一乳臼歯
- b 5歳児の上顎第二乳臼歯
- c 7歳児の上顎第一大臼歯
- d 11歳児の下顎中切歯
- e 12歳児の下顎第一大臼歯

18 7歳の女児。下顎切歯の萌出の異常を主訴として来院した。同部のエックス線写真で異常は認めない。初診時の口腔内写真(別冊No. 1)を別に示す。

適切な対応はどれか。

- a 経過観察
- b A Bの抜歯
- c B A Aの抜歯
- d A Aの抜歯
- e B A A Bの抜歯

別 冊  
No. 1 写 真

19 5歳の男児。歯の変色を主訴として来院した。3か月前に転倒し、上顎前歯部を強打したという。初診時の口腔内写真(別冊No. 2A)とエックス線写真(別冊No. 2B)とを別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a 漂白
- b コンポジットレジン修復
- c 生活歯髄切断
- d 拔歯
- e 感染根管治療

別 冊  
No. 2 写 真A、B

20 10歳の女児。下口唇の異常を主訴として来院した。3週前に気付いたが放置していたという。疼痛はなく、軽度の波動を触れる。初診時の口腔内写真(別冊No. 3)を別に示す。

疑われる疾患はどれか。

- a 上皮真珠
- b 粘液嚢胞
- c 口唇ヘルペス
- d 咬傷
- e Koplik斑

別 冊  
No. 3 写 真

21 12歳の女児。歯の異常を主訴として来院した。初診時の口腔内写真(別冊No. 4

A、B)とエックス線写真(別冊No. 4C)とを別に示す。

考えられる原因はどれか。

- a 象牙質形成不全症
- b エナメル質減形成
- c ポルフィリン症
- d テトラサイクリン系薬物の服用
- e 新生児メレナ

別冊

No. 4 写真A、B、C

22 3歳の男児。上顎前歯部の異常を主訴として来院した。1か月前に同部を打撲

し、1週前から腫脹があるという。初診時の口腔内写真(別冊No. 5A)とエックス  
線写真(別冊No. 5B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- a 生活歯髄切断
- b 拔 髓
- c 感染根管治療
- d 切 開
- e 拔 歯

別冊

No. 5 写 真A、B

23 6歳の男児。上顎右側第一大臼歯部の出血を主訴として来院した。初診時の口腔

内写真(別冊No. 6A)と手掌の写真(別冊No. 6B)とを別に示す。初診時の検査結  
果の一部を表に示す。

赤血球数	: 460万/ $\mu l$ (400~570)
血色素量	: 16.1 g/dl (13~18)
ヘマトクリット値	: 40% (40~50)
白血球数	: 8,500/ $\mu l$ (5,000~15,000)
血小板数	: 20万/ $\mu l$ (10~40)
出血時間	: 4分 (2~6)

( )内は乳幼児、男児の基準値

疑われる疾患はどれか。

- a 白血病
- b 血友病
- c 血小板減少性紫斑病
- d 鉄欠乏性貧血
- e 再生不良性貧血

別冊

No. 6 写 真A、B

24 7歳の女児。正中部の空隙を主訴として来院した。歯科治療の経験はないといふ。初診時の口腔内写真(別冊No. 7A、B)とエックス線写真(別冊No. 7C)とを別に示す。

適切な処置はどれか。2つ選べ。

- a 正中埋伏過剰歯の抜去
- b 上顎両側乳犬歯の抜去
- c 上唇小帯の切除
- d 上顎中切歯の近心移動
- e 下顎切歯部叢生の改善

別冊

No. 7 写真A、B、C

25 18歳の女子。歯肉の異常を主訴として来院した。歯肉の状態は歯の交換期に悪化したといふ。10年前から内服薬を常用している。初診時の口腔内写真(別冊No. 8A)とエックス線写真(別冊No. 8B)とを別に示す。

診断名はどれか。

- a 歯肉線維腫症
- b 急性壊死性潰瘍性歯肉炎
- c 歯肉増殖症
- d 若年性歯周炎
- e 急速進行性歯周炎

別冊

No. 8 写真A、B

26 9歳の女児。歯冠破折を主訴として来院した。1時間前に転倒し、歯を強打したという。上顎左側中切歯の動搖度は1度で、破折部の電気抵抗値は12 kΩである。初診時の口腔内写真(別冊No. 9A)とエックス線写真(別冊No. 9B)とを別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a 間接覆雫
- b FC 断髓
- c 水酸化カルシウム断髓
- d 抜髓
- e 感染根管治療

別冊

No. 9 写真A、B

27 7歳の男児。咀嚼障害を主訴として来院した。初診時の顔貌写真(別冊No. 10A)、口腔内写真(別冊No. 10B)およびエックス線写真(別冊No. 10C)を別に示す。

疑われる疾患はどれか。

- a 色素失調症
- b クモ状指趾症
- c 鎮骨頭蓋異骨症
- d 先天性表皮水疱症
- e 無汗型外胚葉性異形成症

別冊

No. 10 写真A、B、C

28 口腔内のバイオフィルムで正しいのはどれか。

- a 齧歎の原因となる。
- b 頬粘膜に多く存在する。
- c 唾液に易溶解性である。
- d 含嗽で除去できる。
- e 厚さは一定である。

29 歯髓に近接した感染象牙質の除去に使用するのはどれか。

- (1) スプーンエキスカベーター
  - (2) スチールバー
  - (3) ダイヤモンドポイント
  - (4) エアブレイシブ
  - (5) Nd:YAG レーザー
- a (1), (2)
  - b (1), (5)
  - c (2), (3)
  - d (3), (4)
  - e (4), (5)

30 下顎前歯隣接面のコンポジットレジン修復窓洞形成に用いるのはどれか。

- (1) フレーム型ダイヤモンドポイント
  - (2) ラウンド型ダイヤモンドポイント
  - (3) ペアー型カーバイドバー
  - (4) ストレートフィッシャー型カーバイドバー
  - (5) 砲弾型カーボランダムポイント
- a (1), (2)
  - b (1), (5)
  - c (2), (3)
  - d (3), (4)
  - e (4), (5)

31 インレー修復で窓洞外形を規定する因子はどれか。

- a 象牙細管の走向
- b 遊離エナメル質の有無
- c 合着材の種類
- d 隣接歯の修復材料
- e 裏層材の厚さ

32 II級メタルインレーの隣接面接触点の微調整に用いるのはどれか。

- a 厚さ 100 μm のスチール板
- b ダイヤモンドポイント
- c 歯間分離器
- d 仕上げ研磨用ストリップス
- e シリコーンポイント

33 セラミックインレー製作法で色調再現性が最も優れているのはどれか。

- a 鋳造法
- b 加熱加圧法
- c 焼成法
- d CAD/CAM 法
- e 研削法

34 コンポジットレジンインレー修復後の咬合面辺縁部のクレビス(溝)形成に直接関

係するのはどれか。

- a インレーボディの温度膨縮
- b インレーボディの辺縁破折
- c 合着材の剥離
- d 合着材の溶解
- e 合着材の摩耗

35 歯周疾患に対する喫煙の影響で正しいのはどれか。

- a 齒肉出血が多くなる。
- b アタッチメントロスが増加する。
- c 歯周ポケットが臼歯部に多発する。
- d 組織抵抗性が増大する。
- e 歯周外科処置後の治癒が促進される。

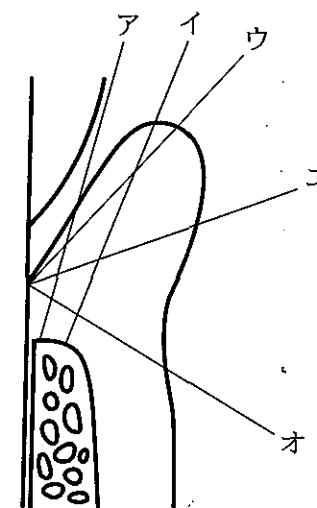
36 限局した深い歯周ポケットの原因となるのはどれか。

- (1) 舌面歯頸溝
- (2) 齒根破折
- (3) エナメル突起
- (4) くさび状欠損
- (5) セメント質肥大

- a (1), (2), (3)
- b (1), (2), (5)
- c (1), (4), (5)
- d (2), (3), (4)
- e (3), (4), (5)

37 齒肉切除術の切開線はどれか。

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ



38 歯周外科手術で術後にアンキローシスを生じる可能性があるのはどれか。

- a ヘミセクション
- b GTR 法
- c 歯槽骨整形術
- d 歯槽骨切除術
- e 骨移植術

39 正しい組合せはどれか。

- a 歯肉退縮 ————— 齒肉整形術
- b 小帶異常 ————— 齒肉弁歯冠側移動術
- c 齒肉増殖 ————— 新付着術
- d 骨縁上ポケット ————— フラップ手術
- e 齒根露出 ————— 遊離歯肉移植術

40 下顎第一大臼歯頬側に2級の根分歧部病変(Glickmanの分類)があり、歯周ポケットは6mmである。

適切な処置はどれか。

- a ルートセパレーション
- b ヘミセクション
- c トンネリング
- d 歯周ポケット搔爬術
- e GTR法

41 リーマー、ファイルのISO規格で正しいのはどれか。

- a 40番のD<sub>1</sub>は0.40mmである。
- b 刃部の長さは番号で異なる。
- c 刃部のテーパーは番号で異なる。
- d 先端の角度は30度である。
- e 45番の把柄部の色は黒である。

42 スミヤー層で正しいのはどれか。

- a 根管充填材の接着性を高める。
- b 根管の機械的拡大・形成時に生じる。
- c 根管消毒剤の効果を高める。
- d 除去にはNaOClとH<sub>2</sub>O<sub>2</sub>とを併用する。
- e 歯冠側からの漏洩を防ぐ。

43 根管清掃用のEDTA溶液で正しいのはどれか。

- a 30%の濃度で用いられる。
- b 酸性で用いられる。
- c 組織刺激性がある。
- d 有機質溶解作用を有する。
- e キレート作用を有する。

44 ガッタパーチャポイントの性質で正しいのはどれか。

- a 硬組織誘導能
- b エックス線透過性
- c 殺菌作用
- d 熱可塑性
- e 根管壁への接着性

45 根管充填後の治癒を妨げる因子はどれか。

- (1) 死腔の存在
- (2) 壊死組織の残存
- (3) 瘢孔
- (4) セメント質の厚さ
- (5) 過剰な根管充填

- a (1), (2), (3)
- b (1), (2), (5)
- c (1), (4), (5)
- d (2), (3), (4)
- e (3), (4), (5)

46 幼若永久歯で正しい組合せはどれか。

- a 歯髄充血 ————— 拔髓法
- b 急性化膿性歯髄炎 ————— 失活断髓法
- c 慢性増殖性歯髄炎 ————— 直接覆髓法
- d 歯髄壞疽 ————— アペキシフィケーション
- e 慢性根尖性歯周炎 ————— アペキソゲネシス

47 正しい組合せはどれか。

- a 歯根尖切除法 ————— 髓床底穿孔
- b 歯根分離法 ————— Lindhe の分類1度
- c 根尖搔爬法 ————— 歯根破折
- d 歯の再植法 ————— 完全脱臼
- e ヘミセクション ————— 横状根

48 20歳の女性。上顎右側中切歯の冷水痛を主訴として来院した。昨日打撲したと

いう。1の自発痛ではなく、動搖度は1度である。初診時の口腔内写真(別冊No. 11 A, B)とエックス線写真(別冊No. 11C)とを別に示す。

治療で必要なのはどれか。

- a 局所麻酔
- b 歯肉圧排
- c 裏層
- d ベベルの付与
- e 隣接面の予防拡大

別冊

No. 11 写真A, B, C

49 35歳の女性。上顎左側側切歯の軽度の冷水痛を主訴として来院した。2週前から症状があるという。2は電気診に正常に反応する。初診時の口腔内写真(別冊No. 12A)とエックス線写真(別冊No. 12B)とを別に示す。

処置に必要でないのはどれか。

- a ダイヤモンドポイント
- b サンドペーパーコーン
- c マトリックスバンド
- d 研磨用ストリップス
- e 咬合紙

別冊

No. 12 写真A, B

50 25歳の女性。上顎前歯部の外観不良を主訴として来院した。10年前に正中離開に気付き放置していたが、明日、長期海外出張に出発するため、今日中に治してほしいという。1|1は電気診に正常に反応する。初診時の口腔内写真(別冊No. 13 A、B)とエックス線写真(別冊No. 13 C)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- a ガラスアイオノマーセメント修復
- b コンポジットレジン修復
- c ラミネートベニア修復
- d ポーセレンジャケットクラウン修復
- e レジンジャケットクラウン修復

別冊

No. 13 写真A、B、C

51 20歳の男性。歯の変色を主訴として来院した。乳幼児期に腎孟腎炎のため長期入院した既往がある。色調異常は萌出時からあり、次第に強くなってきたという。上下顎前歯は電気診に正常に反応する。初診時の口腔内写真(別冊No. 14 A、B、C)を別に示す。

3 2 1 | 1 2 3に対する適切な処置はどれか。

- a ウォーキングブリーチ
- b オフィスブリーチ
- c ホームブリーチ
- d レジンコーティング
- e ラミネートベニア修復

別冊

No. 14 写真A、B、C

52 16歳の男子。上顎右側第一小臼歯の破折を主訴として来院した。1週前に事故で下顎部を強打したという。4に一過性の冷水痛と軽度の打診痛とがみられる。初診時の口腔内写真(別冊 No. 15 A)とエックス線写真(別冊 No. 15 B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- a ガラスアイオノマーセメント修復
- b コンポジットレジン修復
- c アマルガム修復
- d ポーセレンジャケットクラウン修復
- e メタルクラウン修復

別冊

No. 15 写真A、B

53 45歳の女性。上顎左側第二小臼歯の疼痛を主訴として来院した。1週前から冷温刺激に過敏になったという。齶窩の電気抵抗値は 15 kΩ である。初診時の口腔内写真(別冊No. 16 A)とエックス線写真(別冊No. 16 B)とを別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a コンポジットレジン修復
- b 光硬化型ガラスアイオノマー修復
- c 間接覆歯
- d 直接覆歯
- e 麻酔抜歯

別冊

No. 16 写真A、B

54 70歳の女性。下顎右側犬歯の冷水痛を主訴として来院した。昨日、食事中に $\overline{3}$ が破折したという。自発痛はない。齶窩の電気抵抗値は $20\text{ k}\Omega$ である。初診時の口腔内写真(別冊No. 17A、B)とエックス線写真(別冊No. 17C)とを別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a 知覚過敏処置
- b 間接覆髓
- c 直接覆髓
- d 失活拔髓
- e 麻酔拔髓

別冊

No. 17 写真A、B、C

55 48歳の男性。上顎左側第二大臼歯の違和感を主訴として来院した。修復物は半年前に脱落したが、痛みがないため放置していたという。 $\overline{17}$ は冷刺激にわずかに反応する。齶窩の電気抵抗値は $25\text{ k}\Omega$ である。初診時の口腔内写真(別冊No. 18A)とエックス線写真(別冊No. 18B)とを別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a 歯冠修復
- b IPC法
- c 直接覆髓
- d 生活断髓
- e 麻酔拔髓

別冊

No. 18 写真A、B

56 61歳の女性。下顎左側臼歯部の咬合痛を主訴として来院した。 $\overline{6}$ の歯周ポケットの深さは近心から、頬側9、7、4mm、舌側8、6、4mmである。分岐部用プローブは頬側から舌側に貫通する。電気診には正常に反応する。初診時の口腔内写真(別冊No. 19A)とエックス線写真(別冊No. 19B)とを別に示す。

治療法で正しい組合せはどれか。

- a 拔髓 ————— ファルカプラスティ
- b 拔髓 ————— ルートセパレーション
- c 拔髓 ————— ヘミセクション
- d 感染根管治療 ————— ファルカプラスティ
- e 感染根管治療 ————— ヘミセクション

別冊

No. 19 写真A、B

57 52歳の男性。上顎左側中切歯部の歯肉腫脹を主訴として来院した。歯周基本治療で $\overline{1}$ 近心部の歯周ポケットが改善されないため、フラップ手術を行った。初診時のエックス線写真(別冊No. 20A)と手術時の口腔内写真(別冊No. 20B)とを別に示す。

$\overline{1}$ 近心部の骨欠損の種類はどれか。

- a 1壁性
- b 2壁性
- c 3壁性
- d 1壁・2壁混合性
- e 2壁・3壁混合性

別冊

No. 20 写真A、B

58 43歳の男性。上顎前歯部の歯肉腫脹と疼痛とを主訴として来院した。2|2は3か月前から症状を繰り返しているという。初診時の口腔内写真(別冊No. 21A)とエックス線写真(別冊No. 21B、C、D)とを別に示す。歯周組織検査結果の一部を表に示す。

唇側*	9	4	11	8	3	9
歯種	2		2			
口蓋側*	8	4	10	8	3	10
動搖度	2		3			

\* プローピングデプス(mm)

2|2の処置として適切なのはどれか。

- a ルートプレーニング
- b 歯周ポケット搔爬術
- c 暫間固定
- d フラップ手術
- e 拔歯

別冊  
No. 21 写真A、B、C、D

59 58歳の男性。下顎右側臼歯部の歯肉出血を主訴として来院した。特記すべき既往歴はない。初診時の口腔内写真(別冊No. 22A)とエックス線写真(別冊No. 22B、C)とを別に示す。初診時と歯周基本治療後の検査結果の一部を表に示す。

初診時

舌側*	7	2	3	3	2	6	3	2	2	2	2	2
歯種	7		6		5		4					
頬側*	8	6	3	6	3	7	4	2	3	3	2	3
動搖度	0		2		0		0					

歯周基本治療後

舌側*	5	3	3	3	2	4	2	2	2	2	2	2
歯種	7		6		5		4					
頬側*	5	3	3	4	2	7	2	2	2	3	2	2
動搖度	0		1		0		0					

\* プローピングデプス(mm)

76に対し次に行うべき処置はどれか。

- a ルートプレーニング
- b 歯周ポケット搔爬術
- c 歯肉切除術
- d 新付着術
- e フラップ手術

別冊  
No. 22 写真A、B、C

60 42歳の男性。下顎右側犬歯部歯肉の違和感を主訴として来院した。3の頬側歯肉部に食渣が停滞するという。初診時の口腔内写真(別冊No. 23A)、外科処置時の口腔内写真(別冊No. 23B)および術後1か月の口腔内写真(別冊No. 23C)を別に示す。

行った処置はどれか。2つ選べ。

- a 遊離歯肉移植術
- b 小帶切除術
- c 口腔前庭拡張術
- d 歯肉弁根尖側移動術
- e 歯肉弁側方移動術

別冊

No. 23 写真A、B、C

61 53歳の男性。下顎左側第一大臼歯の痛みを主訴として来院した。1年前から頬側歯肉の腫脹を繰り返しているという。初診時の口腔内写真(別冊No. 24A)とエックス線写真(別冊No. 24B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- a 感染根管治療
- b 歯根尖切除法
- c 歯根分離法
- d ヘミセクション
- e トライセクション

別冊

No. 24 写真A、B

62 57歳の男性。上顎右側臼歯部の自発痛を主訴として来院した。2日前から痛みがあるという。6の歯周ポケットの深さは、近心から、頬側12、6、5mm、口蓋側4、4、4mmである。冷刺激に反応する。初診時の口腔内写真(別冊No. 25A)とエックス線写真(別冊No. 25B)とを別に示す。

まず行うべき処置はどれか。

- a 麻酔抜髓
- b 感染根管治療
- c フラップ手術
- d トンネル形成術
- e 歯根尖切除法

別冊

No. 25 写真A、B

63 45歳の男性。下顎左側犬歯と小白歯との疼痛を主訴として来院した。ブラッシングによって頬側部に時々痛みが起こるという。345の表面を探針で触知すると滑沢で硬い。初診時の口腔内写真(別冊No. 26A)とエックス線写真(別冊No. 26B)とを別に示す。

診断名はどれか。

- a 象牙質知覚過敏症
- b 急性単純性歯髓炎
- c 慢性閉鎖性歯髓炎
- d 急性単純性根尖性歯周炎
- e 慢性歯周炎

別冊

No. 26 写真A、B

64 57歳の男性。上顎右側犬歯部の違和感を主訴として来院した。2年前に気付いたが、痛みがないため放置していたという。初診時の口腔内写真(別冊No. 27A)とエックス線写真(別冊No. 27B)とを別に示す。

適切な処置はどれか。

- a 破折片除去
- b 感染根管治療
- c 齒根尖切除法
- d 齒内骨内インプラント
- e 拔歯

別冊

No. 27 写真A、B

65 21歳の女性。上顎右側中切歯の打撲を主訴として来院した。昨日1人が友人の頭にぶつかったという。自発痛はなく、軽度の打診痛がある。動搖度は1度で電気診に反応しない。初診時の口腔内写真(別冊No. 28A)とエックス線写真(別冊No. 28B)とを別に示す。

適切な対応はどれか。

- a 経過観察
- b 永久固定
- c 拔髓
- d 感染根管治療
- e 拔歯

別冊

No. 28 写真A、B

66 51歳の男性。上顎右側第一大臼歯の痛みを主訴として来院した。1週前から咬合痛と一過性の冷水痛があるという。初診時の口腔内写真(別冊No. 29A)とエックス線写真(別冊No. 29B)とを別に示す。

考えられる原因はどれか。2つ選べ。

- a 象牙質知覚過敏
- b 修復物の破折
- c 齒の亀裂
- d 二次齲歎
- e 咬合性外傷

別冊

No. 29 写真A、B

67 18歳の男子。上顎左側第一大臼歯の自発痛を主訴として来院した。7年前にコンポジットレジン修復処置を受けたが、2年前から冷水痛があり、1週前に自発痛へ移行したという。6は温熱刺激と打診とに鋭敏に反応する。初診時の口腔内写真(別冊No. 30A)とエックス線写真(別冊No. 30B)とを別に示す。

考えられる原因はどれか。

- a 辺縁漏洩
- b 齒冠破折
- c 咬合性外傷
- d 咬耗
- e 象牙質知覚過敏

別冊

No. 30 写真A、B

68 48歳の男性。上顎右側中切歯部の違和感を主訴として来院した。5年前に補綴物を装着し、3か月前から疲労時に症状が現れるようになったという。初診時の口腔内写真(別冊No. 31A)とエックス線写真(別冊No. 31B)とを別に示す。歯周組織検査結果の一部を表に示す。

唇側*	8	4	9
歯種	1		
口蓋側*	7	3	8
動搖度	2		
打診痛	+		

\* プローピングデプス (mm)

診断名はどれか。2つ選べ。

- a 慢性閉鎖性歯髓炎
- b 慢性根尖性歯周炎
- c 慢性剥離性歯肉炎
- d 慢性歯周炎
- e 歯根破折

別冊

No. 31 写真A、B

69 45歳の女性。2年前に下顎右側臼歯部の治療を終了し、定期診査のため来院した。初診時のエックス線写真(別冊No. 32A)と定期診査時のエックス線写真(別冊No. 32B)とを別に示す。

エックス線写真から判定される術後所見はどれか。2つ選べ。

- a 歯の挺出
- b 歯槽骨頂部の吸收
- c 咬合性外傷の消失
- d 骨硬化像の消失
- e 固有歯槽骨の回復

別冊

No. 32 写真A、B

70 43歳の男性。上顎右側犬歯の治療中、頬部に腫脹が発現した。初診時のエックス線写真(別冊No. 33A)、根管長測定時のエックス線写真(別冊No. 33B)および腫脹発現時の顔貌写真(別冊No. 33C)を別に示す。

適切な対応はどれか。2つ選べ。

- a 摂食の制限
- b 温罨法
- c 抗菌薬の投与
- d 内容物の穿刺
- e 切開

別冊

No. 33 写真A、B、C

◎下記の欄に受験番号および氏名を記入すること。

受験番号	氏名(楷書で書くこと)